



## BT-200とSFシリーズの違いとは

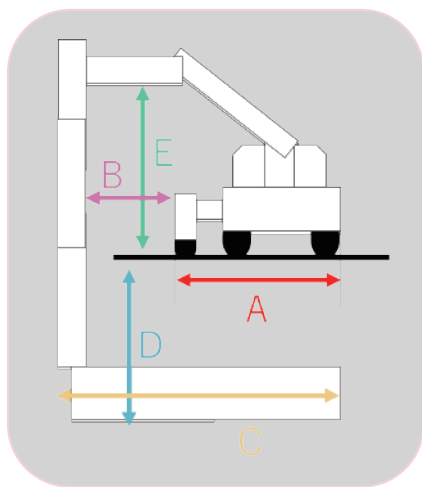
### 内容



橋梁点検車の代表機種BT-200とSF77シリーズ。今回はそれぞれの機種の特徴にフォーカスを当て、性能を比較して行きたいと思います！！

※SFシリーズはⅢ、Ⅳ、B1FR型と3種類ありますが、今回はSF77B1FRにて比較します※

### 1. 道路占有幅について



左図A	BT-200	SF77B1FR(左)
最大	3,050mm	3,180mm
中間2	設定なし	3,050mm
中間1	2,850mm	2,850mm
最小	2,380mm	2,380mm

SFの方が最大張出時の道路占有幅が大きくなってしまいます。張出幅が大きい分、後述の歩道乗越え幅等で有利な点が出てきます。最小設置時は同じ寸法です。

**SFは右作業と左作業でアウトリガーの張出幅が異なるので、注意が必要です。**

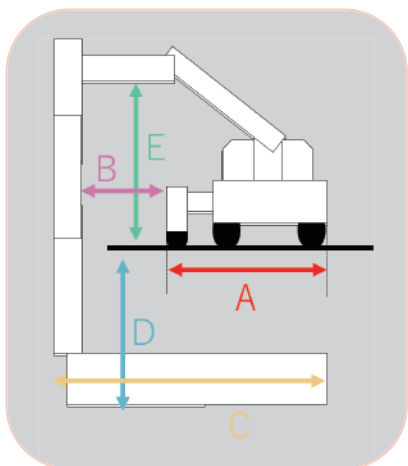


#### ☆縁石跨ぎ☆

左の写真のように縁石を跨いで歩道上にアウトリガーを設置することがあります。キナンのBT-200は500mmの縁石をギリギリ跨げるように改造していますが、SFを使えば股の間が広く余裕を持って作業出来ます。

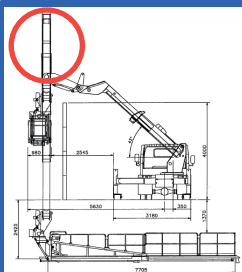


## 2. 歩道乗越え幅



左図B	BT-200	SF77B1FR(左)
最大	2,340mm	2,545mm
中間2	設定なし	2,320mm
中間1	1,890mm	2,185mm
最小	960mm	1,350mm

アウトリガー張出幅に応じた最大の歩道乗越え幅です。アウトリガー端部からデッキ内側までの距離となり、クリアランスはありません。実作業においては200mm程余裕を見る必要があります。

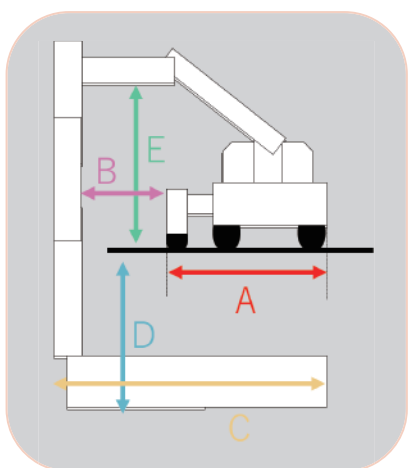


### ☆歩道跨ぎの注意点☆

SFシリーズは広い歩道を超える際、フームを45°程度まで起こす必要があります。そのため、架空線等がある現場では対応できないことがあります。潜い深さも減少するため、桁高のある橋梁の場合も注意が必要です。



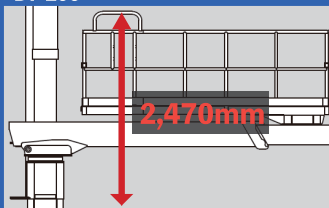
## 3. 最大差込長さ



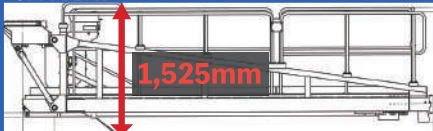
左図C	BT-200	SF77B1FR(左)
有効長	7,490mm	7,705mm

差込の有効長はSFシリーズの方が若干長くなりません。ただし、SFシリーズはポストとフームの付き方に特徴があり、差込長さが無駄になってしまう場合があります。これはフーム旋回で多少カバーできます。

BT-200



SF77B1FR

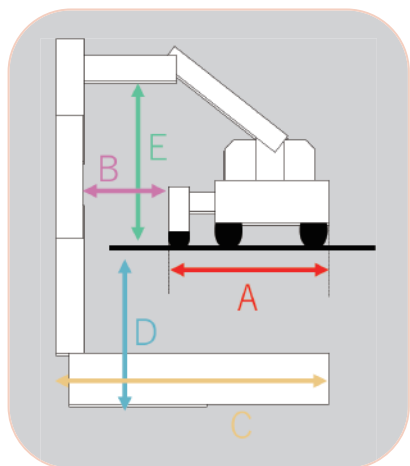


### ☆桁下スペースのない橋梁☆

SFシリーズはBT-200に比べ、デッキ底面～手摺上部までが薄く、桁下空間に余裕のない橋梁でも対応出来ます。ただし、デッキ部はたわみがあるので桁下空間は1,800mm程度で検討して下さい。



## 4.最大潜り深さ

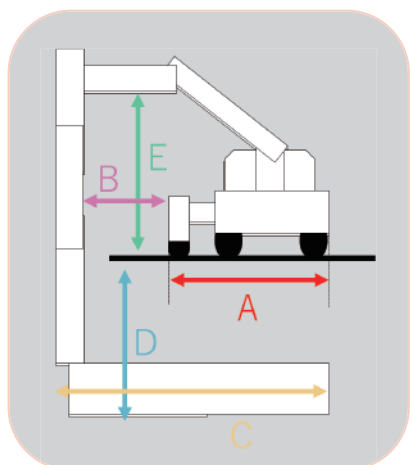


左図D	BT-200	SF77B1FR(左)
最大	5,350mm	5,945mm
中間2	設定なし	5,945mm
中間1	5,100mm	5,945mm
最小	4,880mm	4,825mm

アウトリガー張出幅に応じた最大の潜り深さの比較です。SF77B1FRはSFシリーズの中でも特殊で、アウトリガー張出幅に応じて潜り深さが最小時以外減少しません。II、III、IV型はリガー張出幅に応じてフームが伏せなくなり、数値が大きく減少します。



## 5.遮音壁乗越え高さ

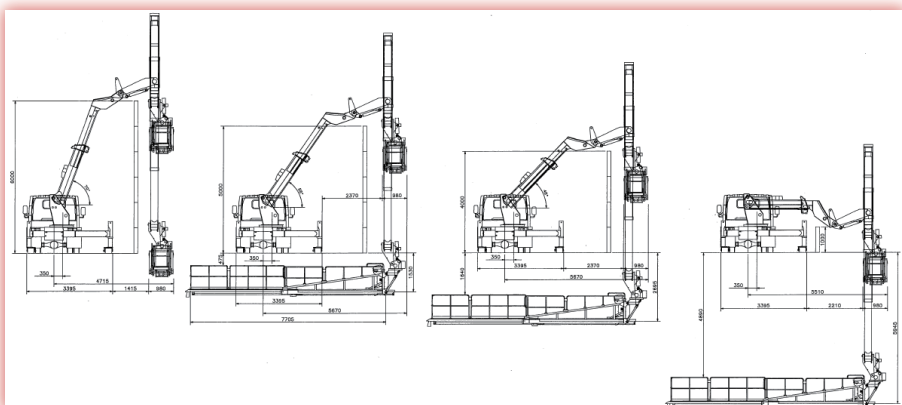


左図E	BT-200	SF77B1FR(左)
最大	5,250mm	6,000mm
中間2	設定なし	6,000mm
中間1	4,600mm	4,500mm
最小	3,000mm	2,000mm

基本的にはSFシリーズの方がより高い遮音壁を超えることができます。SFはポストとフームの間にアームと呼ばれる部品があり、遮音壁を抱え込み易い作りになっております。最小時はBT-200の方が優れており、有効幅員が狭い場合は優秀です。



## 6.展開可能方向



SFシリーズは進行方向向かって右側にも展開でき、追越車線側からも作業が可能です。BT-200は古いI型は右側にも展開出来ました。現行のII型では左側作業のみとなります。

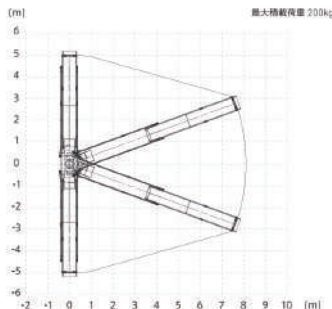
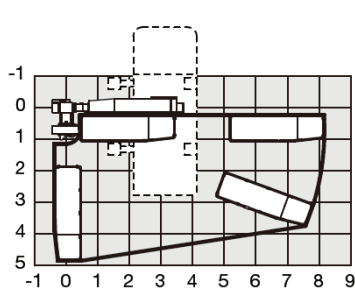
キナンではすでにBT-200(I)は手放しており、右側作業が必要な場合、SFシリーズを推奨します。



## 7.デッキ回転範囲

BT-200

SF77B1FR



	BT-200	SF77B1FR(左)
回転角度	90°	180°

SFシリーズは橋の下でデッキ部が180° 回転します。そのため、斜橋やカーブ橋でも使い勝手が良く、照明柱や標識などで前進・後進の制限がある現場でも活躍できます。BT-200もフーム回転で多少カバーできます。



## まとめ

単位(mm)		道路占有幅	歩道乗越幅	最大差込長	最大潜り深さ	最大遮音壁	展開可能方向	デッキ回転角度
BT-200	最大	3,050	2,340	7,490※1	5,350	5,250	左のみ	90°
	中間	2,850	1,890		5,100	4,600		
	最小	2,380	960		4,880	3,000		
SF77B1FR	最大	3,180	2,545	7,750	5,945	6,000	左右可	180°
	中間2	3,050	2,320			4,500		
	中間1	2,850	2,185			2,000		
	最小	2,380	1,350			7,000※2		

※1 姿勢により若干変化します。 ※2 最小張出時はフーム回転角度とデッキ伸縮に規制が掛かります。

※本資料は参考数値です。現場の諸条件により適応度合いが変わります。

他にも細々とした違いが多くあります。また、SFシリーズについては型式により大きく性能が異なります。現場踏査・適応機種を選定も弊社で賜いますので、お気軽に御声掛け下さい！！



株式会社 **キナン**

高所・橋梁点検事業部

仙台営業所  
東京営業所  
川崎営業所

千葉営業所  
名古屋営業所  
大阪営業所

豊中営業所  
姫路営業所  
広島営業所

福岡営業所  
熊本営業所

営業所案内は  
こちらを  
クリック!!

